



特
明へ遠13
2208
10

星月夜顯晦録二編卷之五

目錄

○和田義盛格言且歎状とらつて上総の國司を所望と

善哉君御袴着の図

土屋宗遠権原家茂を討圖

○義盛土屋宗遠が罪をや宥

刑部丞恭時又義時を諫る圖

藏人朝親が愛妻逐電の事

○胡貳公業騒乱と企北条時房高命と蒙り静謐

義盛騒乱と静人とと北条時房急使の事

星月夜頭録二編卷之五

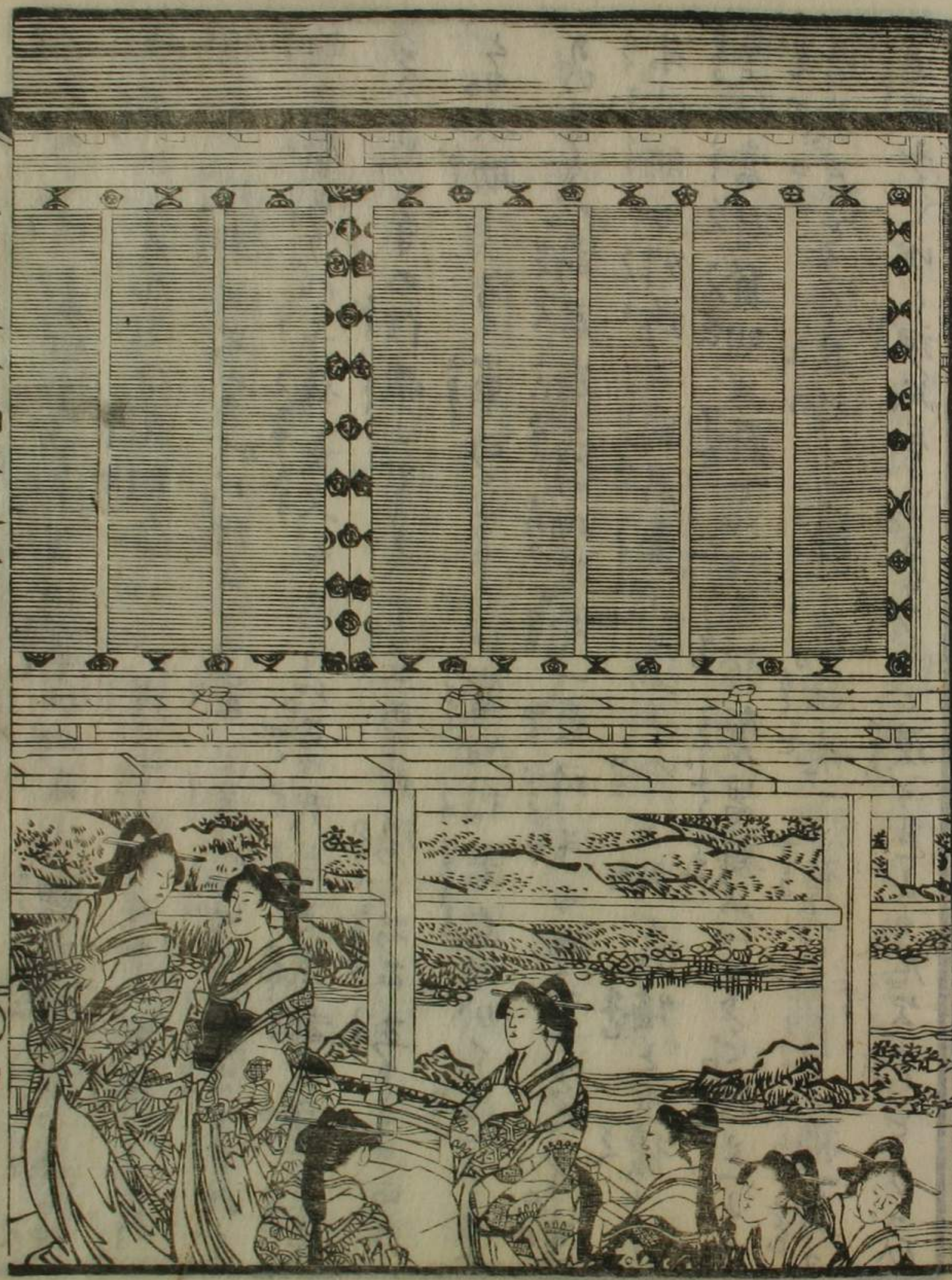
私田義盛格言且歎状と云々因司と弄牛

抑善哉君と云々金吾二品頼家卿の若君云々。中腹も加茂六郎
重長の息女云々。頼家卿廢去の如く幼稚なるふらふら。乳母不
頼ある。乳母の三浦義澄が婿男年六兵衛尉。義村が妻あり。
けゆへ又美村若君と扶助しある如く。元久二年十二月。尼公のおん
斗ひ云々。鶴ヶ岡の別當阿闍梨若暁の才子と云々。彼在坊又
入並せし止し。又頼家卿と云々。智弁明あし。
眼中尖く。大剛又威有く猛き骨柄あり。理るるか。母公を。
八郎為朝の孫女云々。又加茂六郎ハ。八郎ハ曹司の男あり
自れと曾祖父の勇猛を受継ぐ人と見え云々。移る幼少あり



星月夜二編卷之五

八二



善哉君
御著の
図

三代之君は仕へた滅亡は又異なるものと雖も尚時小糸一家の
 繁昌あり。旧好の諸臣も好身と失ひ君辺も疎く。時又後入者
 多く。小糸は膝と屈し。僅に全死を免れと收す。美盛一人は
 智小糸と忠とど。天下の為め悔多く。諫言をまれば。功勞莫
 太の舊臣もれば。北条の威も。和田を屈するを叶はぬ。龍虎のどく年
 月とす。美盛所領不足多く。竹下の別家あり。左衛門尉は
 伊豆の足利を。伊豆の足利を。一國の任之。後とく。足利とど。自
 のを教りぬ。是を口外に。竹下一世の中。本立
 と達せんと。此以切よ。内と廣元は。上総の團司は
 吹任せられん。吹任せられん。廣元もその志の切多と。右の角
 披家。和田が功勞。吹任せられん。吹任せられん。母は。追伺は

女性の牙の口入は。執持老臣は。終合も。但し。幕
 下の。侍の受領を。停止。是は。返答。又
 美時。廣元。信。和。田。公。仰。の。諸。臣。の
 受領。一人。免。許。あ。た。は。ち。怨。も。我。も。不。平。を。ん。
 美盛の。代。免。許。あ。た。は。ち。畏。員。の。沙。汰。も。先。垂。す。と。思。ふ。
 規。れ。る。有。作。下。れ。我。と。す。は。先。垂。す。と。思。ふ。
 せんと。仰。あり。何。の。沙。汰。も。さ。ら。う。り。る。美。盛。十。日。修。り。終。て。再。び
 け。後。と。今。度。も。表。向。款。状。と。り。つ。て。廣。元。又。屬。し。治。兼。双。珠。手
 公。の。旁。と。速。老。衰。と。迫。り。唯。け。る。後。の。眉。目。は。倭。人。と

星月夜二編卷之七

七

欲そ。免許す下され。君恩子孫に及び高きこと。茂盛一々の
 條執らざるありと。そのいふこと。歎ひし。小条茂盛時。歎状をえて。
 大に嘯り。茂盛寸切は。擧げ。歎状をり。高職と仰ひて。
 その越え甚不慮之。一世の歎ひ。此不慮あり。君の如若年と
 侮て是非免許せむ。ん。若く免る。バ詞の立ざるを。以
 謀る。見よ。不簡也。若輩の辨る。れ。歎ひる。ハ。最とる。べし。
 元老と稱する。牙の。理不。その。所。信。又。あ。と。や。と。や。け。れ。ば。
 廣え。い。う。茂盛の。歎ひ。す。解。の。扱。る。れ。ども。老年。及び。存。令。の
 餘。ま。る。れ。予。に。死。せ。んと。ある。勇士。の。奉。を。す。は。る。は。は。
 前。し。う。所。る。の。志。あり。と。い。ども。免許。の。難。う。ん。と。い。ひ。招。へ。居。る。
 が。聖。を。も。と。ぬ。老。身。と。い。ひ。切。り。の。歎。ひ。と。存。ま。む。不。便。の。云。

底よ。いと。取。り。し。え。れ。い。ども。茂。時。只。管。は。拒。も。老年。と。て。先
 例。ら。れ。し。は。子。許。す。事。と。不。忠。を。す。べし。元。老。と。い。ひ。ん。君。は。怒。気
 と。残。さ。る。事。彼。が。愁。を。忍。び。許。さん。君。の。威。勢。う。く。彼。は。後。に
 あり。又。似。し。う。と。なる。ゆ。へ。君。行。れ。も。仰。出。さ。る。事。廣。元。由。道。若
 又。困。り。茂。盛。は。向。ひ。君。の。怒。は。よ。う。て。ハ。沙。汰。さ。り。と。し。り。す。あ。り。
 茂。盛。由。再。三。押。し。君。ん。由。す。後。と。い。ひ。右。左。右。と。お。代。居。り。す。
 時。は。兼。元。三。年。五。月。の。つ。う。り。り。我。ら。茂。時。の。嫡。男。兼。時。去。年
 式。部。承。了。は。但。せ。れ。叙。又。式。部。承。了。武。務。守。は。但。せ。り。が。の。時
 兼。時。又。向。く。す。け。ん。茂。盛。が。歎。ひ。徹。又。餘。茂。さ。く。号。し。の。を。茂。盛。自
 受。願。先。例。あり。と。い。ふ。事。も。時。移。り。世。習。と。い。ひ。強。先。規。と。し。り。
 が。れ。知。も。あり。それ。も。故。道。乱。れ。順。例。の。差。ん。と。い。ふ。急。度。も。あ。り。ん。

茂盛一々の

六



月夜二編卷之五



土屋三郎
梶原
家茂
村長

月夜二編卷之五

七

閑隙之浦に赴き、終日釣を垂く樂とて、梶原家茂を織
 勇士のたびに持参せし。是より馬を引渡り、左に漁を好み、水練り
 列んたり。土屋と山村と捨一釣すれり。多練の法は、釣を垂て
 釣く何のなるや。但し、儉約を好み、自手取く、貧乏馬を釣るの事
 我も價を必く交易せし。唐士の大平平の釣を以て、聖
 君と約と云。果しく文王と違ひ。彼も志あり。是より彼が計の先あり
 殺生の罪を罹るべきと陰言す。人々も信ずし。宗遠は、
 此の如く、大に怒り、これ釣を好み、武道を捨て、君用を欠く事と
 する。梶原若輩と云。罪人の婢とて、人と排撥するを、何ぞ甚しん
 人も人よりべし。土屋宗遠も、彼が誘を受べし。は憎と奴我
 と憤り、る如く。同日、五月廿八日。宗遠等四五人、引連て飯島の
 辺に出。毎のどく釣を垂と、舟を折却。梶原家茂、小埜の辺
 又逍遙し。その時、西濱に出。宗遠が釣する如く、是より見物せし。

しも土屋三郎大魚一尾釣あげし。家茂、おむせまじり。おむせり
 又獲り、力のうま。日本の山椒練行ありと、追従し、養ひを。宗遠憎
 しと、おむせり。釣は竿根捨、太刀を抜、汝日比の手練、あつと、中ハ
 某的の意を入。武道を去りぬり、の嘲る。若く、汝これを誘り。
 罵り、と、汝は、釣は、性根を奪れ。宗遠、刀を受く。是より、立向、を
 元来、柔弱の家茂、大に怖し。返答も、及をむ。逆出、と、宗遠、追り、大
 尻手を延ぐ、切り、く。家茂、脊中を切り、とる。梶原、逸足、出、
 走り、ると、適、と、韋、秋、天、の、追り、再、び、切、り、と、れ、首、筋、筋
 え、より、腰、の、骨、を、切、り、下、り、倒、り、如、を、糸、掛、り、首、の、刀、を、刺、通、し、立

上知。喧嘩。と。強立。法士。東西。又。毒。走。と。宗。遠。家。人。又。命。じ。
 兵。具。を。取。り。せ。せ。せ。直。上。は。所。へ。馳。奔。し。和。因。形。兵。衛。尉。を。益。又。斬。
 て。兵。具。を。獻。し。家。茂。悪。口。を。よ。う。て。討。捨。ゆ。い。喧。嘩。の。始。終。を。
 中。上。ら。よ。美。時。の。沙。汰。と。て。宗。遠。を。美。盛。へ。斬。せ。せ。り。和。因。を。と。
 斬。り。し。も。一。族。よ。ら。よ。う。て。宗。遠。を。仇。と。し。北。條。美。時。が。斗。ひ。り。
 家。茂。に。免。を。表。し。上。へ。宗。遠。明。友。と。り。私。の。宿。立。あ。り。べ。その。旨。を。
 訴。へ。理。非。を。証。し。さ。よ。我。さ。よ。伊。を。撰。り。君。の。臣。を。誅。し。悪。口。を。な。
 と。陳。し。兵。具。を。獻。し。理。を。立。ん。と。君。を。斗。り。段。不。届。之。相。手。一。死。亡。乃。
 上。へ。乳。明。又。及。び。と。と。一。匹。夫。百。姓。を。害。さ。る。哉。命。ハ。怪。り。ふ。は。是。を。
 宥。め。並。ま。ば。強。氣。の。軍。喧。嘩。又。り。あ。宿。立。あ。り。の。故。殺。害。し。己。
 が。利。を。逃。君。所。を。掠。め。強。劫。信。の。間。あ。り。す。ん。み。林。の。急。度。禁。め。ら。

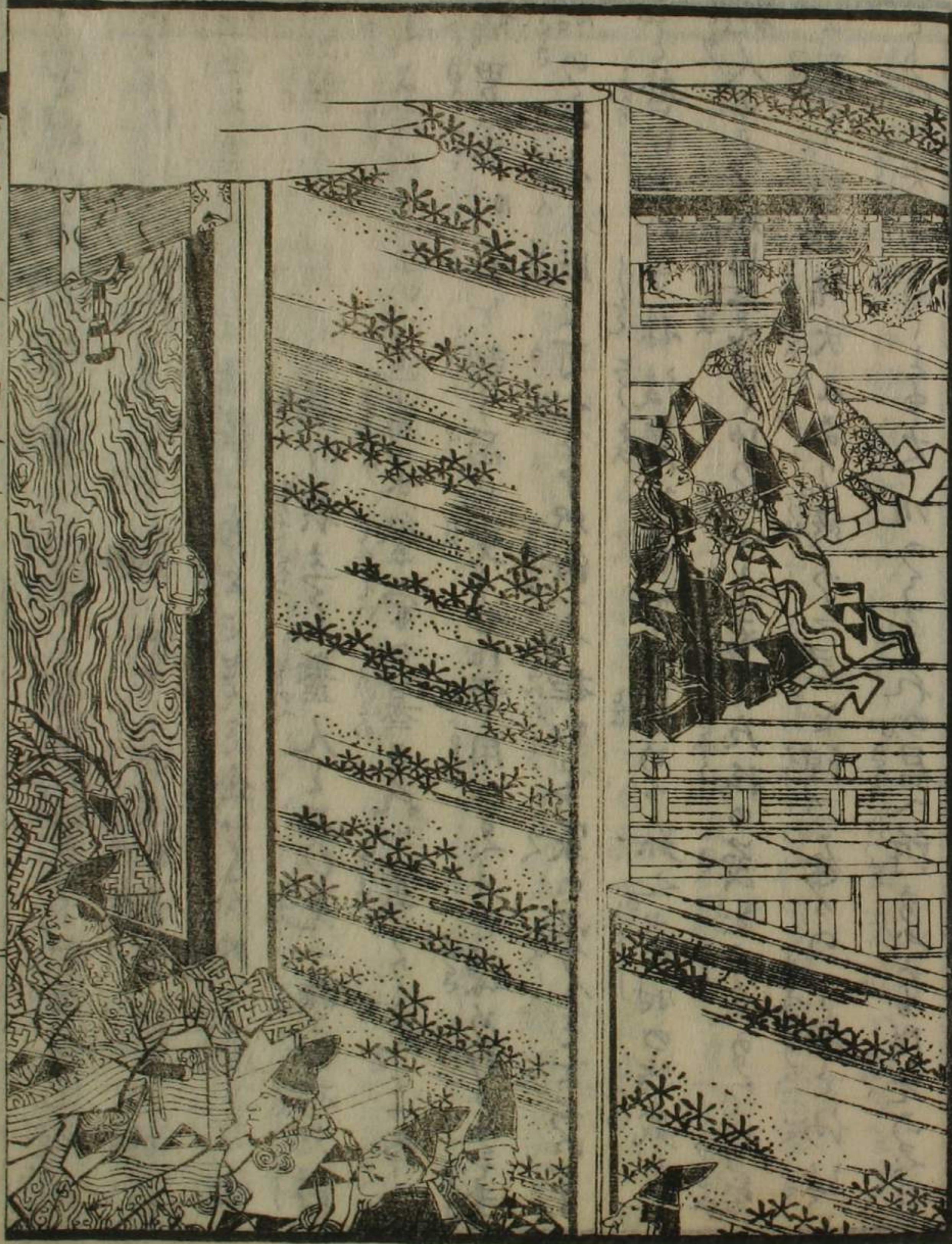
べ。と。由。上。ら。一。理。あ。り。又。み。く。再。び。和。田。へ。下。知。あ。り。宗。遠。を。嚴。ま。
 く。禁。止。べ。し。と。命。せ。ら。る。土。屋。ハ。前。功。多。し。兵。具。を。上。上。潔。白。よ。
 上。上。へ。陳。め。ら。り。美。の。あ。じ。と。案。を。相。違。し。公。怒。り。定。く。終。者。乃。
 所。為。ら。る。と。即。時。又。款。状。を。繕。め。見。上。る。右。大。好。の。比。時。に。戦。功。を。
 勳。と。勤。勞。を。言。ふ。と。も。又。と。も。敢。く。恩。賞。を。貪。り。む。僅。く。家。重。一。人。を。
 害。せ。し。と。兵。具。を。獻。む。の。と。も。不。禁。と。て。眉。目。を。失。し。知。之。
 殊。更。家。茂。ハ。謀。逆。人。宗。時。が。孫。あ。り。然。恨。を。挾。む。罪。人。と。す。と。奪。る。
 と。不。忠。と。名。め。分。さ。せ。身。を。耻。辱。の。命。に。表。り。ま。る。中。に。と。書。け。り。
 美。盛。土。屋。宗。遠。が。罪。を。宥。む。
 北。條。美。時。君。前。に。放。り。か。の。款。状。を。繕。り。終。り。己。が。功。勞。の。故。あ。り。

北條刑部

兼時又

兼時を

兼時



巾使ふく。美盛先達く所望侍。國司奉任のり。内々巾斗ふ
 の間暫く左右を待て。旨仰下され。美盛亦限り。其
 分の所尋候。上知。打捨立せ。巾斗ふ以下。段眞
 加至極。難き仕合。存け。美免許。生涯の本望死
 後の大業。是るべ。厚く謝し奉り。巾左右を相待。其
 又同年十二月十一日。美能人胡祝。小鹿島橋次左衛門尉公業
 と。倉忽の合戦。企込。倉中大。又騒動。その友。胡祝。去。比
 京都より一人の美女。呼下。妻と。寵愛。と。限り。胡祝
 が妻。土屋三郎宗遠。娘。嫁。数年。行。一子。も
 生。後。毛。由。夫婦。胡祝。元。来。色。又。耽。る。の。志。あ。る。由。へ
 夫婦。の間。睦。し。り。り。の。妻。を。抱。て。り。忽。ち。是。の。紗。を。奪。れ。昼

夜側を離れ。妻の。夫。斗。り。由。利。内。の。妻。を。離。別。し。り。
 彼の妻。と。妻。よ。せ。ん。と。企。け。且。も。貞。女。の。妻。女。ら。れ。罪。多。し。て。離。縁
 せん。元。の。毒。よ。び。彼。ら。方。り。好。で。帰。る。事。も。公。業。一。妻。を。愛。を
 る。り。深。き。絆。を。形。し。嫉。妬。の。色。あ。り。夫。を。引。離。別。せ。ん。と。斗。り
 う。も。此。妻。ら。負。操。と。守。り。柳。嫉。妬。の。色。多。し。其。由。胡。祝。が。持。媛。と
 斗。い。仕。る。由。と。打。捨。立。せ。り。件。の。妻。ハ。元。京。都。先。約。の
 夫。あり。其。由。密。夫。と。り。表。し。形。を。と。り。り。か。さ。り。く
 彼。情。を。志。せ。り。京。へ。入。り。と。欲。さ。り。や。今。月。三。日。の。夜。胡。祝。が。宿
 所。を。忍。び。出。逐。電。燈。の。意。あり。其。表。門。へ。入。り。其。部。屋。を
 裏。へ。穿。幸。苦。く。墮。と。越。り。胡。祝。が。宿。所。と。小。鹿。島。が。館
 と。相。並。び。一。也。堀。の。あ。り。ハ。公。業。が。夫。庭。あり。其。而。今日。公。業。が



蔵人
朝親
愛妻
逐電
の面

尾形文二編卷六

七



尾形文二編卷六

七

妻を祀と糸人倫の道にあらず。初まれば是非はなれば。女も色を諫め。丈夫よりせうの妻を男子の情を破る。女は武道と摩く公業。よも五根の不義をいそぎ。善有り。一恋の告げ信下。鹿忽の仇怒をいそぎ。結く。一。胡脱由むと。先実不。隣りの妻。胡脱由むと。先実不。隣りの妻。胡脱由むと。先実不。隣りの妻。

問せけり

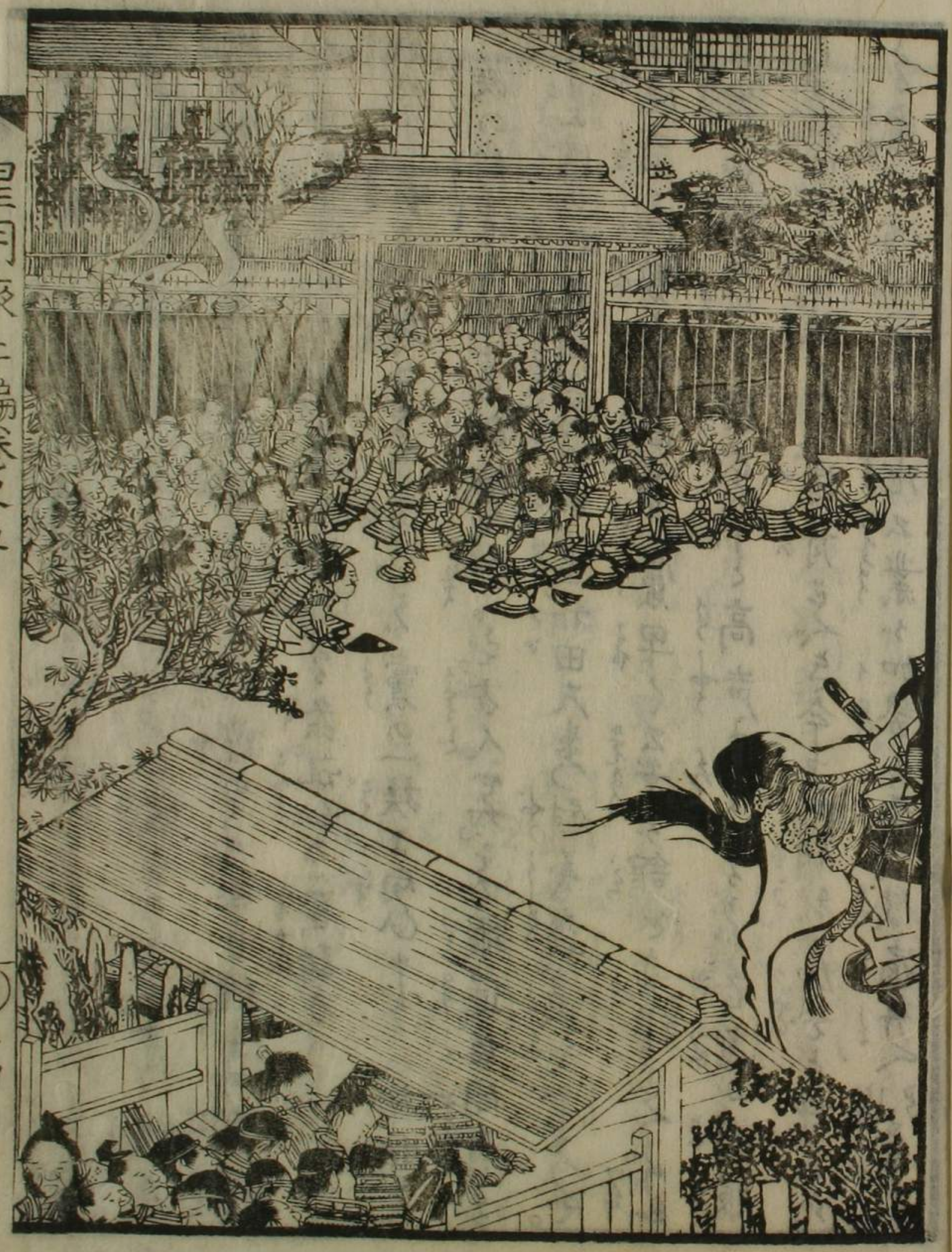
朝親公業。撥乱を企つ。北条時房高命を養ひ。使者至り。云入り。小鹿島より。某か妻を偷む。娯樂を。糸。密夫の罪。定く。受情の如く。人若後悔の。速く。首を打く。度。法を。罪を。正。後。苦。速。公業。眼を。信。一。言。茶山より。重。我。悪名。分。糸。何。件。の。女。が。沢。と。云。公。業。の。怒。電。

通ふ何よりぞや。け方よあ女を賊の馬に誘ひ去りて
 け。まが館に入て救ひ呉よとれぬ心も不便を加へ暫く扶持し
 並知らる。然も胡奴を愛妻とせしむる句に、賊とて
 もそのえの所行する。いつと武士は向ひ不義密通する。自地
 中退くも。去恨少くも。忍ぶも堪はれけ方より。此
 悪名を雪べしとて。使者と追合し。多ふを胡奴とれと
 中。その多るも彼館より。並多く。謀殺せし。武士の勇気
 何の為ぞや。その恨と情を。命活せし。憤怒の余り
 合戦を企て。一族縁者を。子細い志を。ねたれ。土屋宗遠が縁より。悉く胡奴の方より。その外武田

小笠原の軍好より。同く胡奴宿所。群集して。園を。あぶ
 由。其。大。勝。負。を。交。せ。と。化。人。を。誘。ひ。家。内。の。子
 息。郎。亦。僅。も。百。余。人。あり。と。ど。も。我。の。支。度。を。も。胡。奴。の。軍。と
 新。羅。源。氏。一。黨。三。浦。の。一。族。を。合。せ。その。勢。雲。霞。の。如。く。その。軍。と
 梁。有。史。胡。奴。と。縁。者。あり。け。子。細。を。守。り。ち。の。孫。孫。を。代
 子。の。実。否。を。礼。え。んと。せ。し。む。る。中。推。動。も。及。び。一。人。後。馬。も。策
 きて。彼。を。地。至。り。群。集。の。軍。を。制。し。止。め。事。論。の。子。細。を。守。り。と
 ち。小。鹿。島。方。も。至。り。板。立。を。尋。ね。よ。公。業。始。終。を。物。論。り。胡。奴。使
 を。め。く。妻。を。盗。み。密。夫。より。と。中。也。け。方。より。是。を。礼。え。んと。せ。し。む。る

胡奴子群は合戦を企ね人を集め騒動に某由又一族胡奴
 あつて之も彼未か存せざるや一人由招れ集めむ不
 突くる事論史胡奴と其の勝負を交して是るん。當を
 動乱を好む君への思ひ討つん時の運滅亡の後存擡の
 我りめんと存まば隣家何千の勢ありとも我れ一千の勢の
 幾人と欲らぬ。法て合戦を好むやあつたれども胡奴
 集るる臆せしと云えんも勇士の社らぬ止るは
 ゆと明白は演説しけし。美蓋丈の感。神妙の中
 背くこれ又双方面の立敵を
 直は胡奴が亭に至る子細を尋ねる言語分明るん。只
 と偷し其情を晴えん為の事や。美蓋急て胡奴が女は性

恨を奪れ妻女を疎む居且一人の婦は理るれども。駭
 失馬鹿のふと必ひ定めや。一旦の怒と理るれども。駭
 動も及ぶ。鹿忽千万不敬。殊更孔明も及ぶ。
 巾辺の恨も。それ縁者も。美蓋又よりて
 助力も。是非と分るる。横行の騒動を引出
 非は。早と。美蓋又
 是對交あり。自らの耻辱とする筋ありと。練めけし。胡奴
 怒は堪へぬ。時由へ美蓋は詞を用ひ。女を奪ひ。我
 賊る。牙命を惜ま。恨も骨髄は。我
 用意せし。今更止ま。必止めぬ。家
 身と捨る。勇士の。再び論



北条時房
 和野盛
 駿州
 急使の
 馬



と有り騷動さるる。其我まの舉劾さくゆ。彼近來功方又慕り
 君と執んど。殊に此行々上総の國司免許るを憤り。切り又自ら乃
 功方と稱し。がしやと衣衣を穿せむ。後國司の任と許されむ
 千辛万苦も何の益もあらん。功方れども安んずとせむ。罪あれども罰を
 蒙るてなり。がれ時々ても。傳をまゐれと吹聴はす。け交の騷動
 中。聊めゆるん。美盛を辭んとせむ。却て黨を傳し。加勢せん
 ともある。元來りの。よく立騒ぐとせむ。庶士の別當々の上へ。大らど
 と。幼彼又詣不輩。これ方らどと。馳走ゆゆ。法人忠怖し。大騷動
 及び之。惣て自己の口より衣衣と述劾ゆ。されば。傳を生じ。これ
 衣衣をとり。並り。さく族も。阿留倭使の族も。已非分の。是れ
 時。君を排大臣を嘲り。竟り。謀及と企む。の。臣とて。衣衣を
 へ道る。思慮を。妻子と。儻と。角。竹の。為。や。お。バ。大。勅。を。是
 さん。の。の。眞。加。と。さ。く。必。人。の。為。る。ん。恩。賞。を。さ。く。不。志。を。改。乃
 理。ゆ。や。美。盛。敵。死。の。恩。地。を。傾。し。法。士。別。當。を。管。る。を。前。功。め。れ。た
 之。彼。口。より。衣。衣。を。述。け。依。を。取。へ。さ。く。不。忠。の。賊。と。せ。し。今。の。騷。動。由。時。房
 系。上。の。美。盛。は。む。え。れ。か。後。本。の。禁。戒。美。盛。を。め。り。暗。の。車。を。急。交
 召。窮。め。ゆ。ん。ん。に。法。又。動。乱。を。企。む。と。尾。鱗。を。生。し。種。々。珍。言
 し。れ。ば。君。を。め。り。め。り。實。力。と。さ。り。名。り。る。や。北。条。へ。時。々。傳。使。を。り。け
 ら。れ。騷。動。を。靜。め。ん。公。業。朝。親。並。行。格。の。車。床。所。より。召。多。君。傳
 直。又。火。形。の。多。と。さ。く。仰。を。さ。く。時。又。小。宗。武。義。も。高。命。を。慕。り。公。業
 朝。親。宿。所。に。馳。走。る。小。鹿。嶋。方。の。美。盛。も。め。り。三。浦。の。一。黨。も
 勢。と。さ。く。和。め。ん。朝。親。方。の。甲。信。の。領。氏。亦。少。あり。い。ま。と。合。我

と有り騷動さるる。其我まの舉劾さくゆ。彼近來功方又慕り
 君と執んど。殊に此行々上総の國司免許るを憤り。切り又自ら乃
 功方と稱し。がしやと衣衣を穿せむ。後國司の任と許されむ
 千辛万苦も何の益もあらん。功方れども安んずとせむ。罪あれども罰を
 蒙るてなり。がれ時々ても。傳をまゐれと吹聴はす。け交の騷動
 中。聊めゆるん。美盛を辭んとせむ。却て黨を傳し。加勢せん
 ともある。元來りの。よく立騒ぐとせむ。庶士の別當々の上へ。大らど
 と。幼彼又詣不輩。これ方らどと。馳走ゆゆ。法人忠怖し。大騷動
 及び之。惣て自己の口より衣衣と述劾ゆ。されば。傳を生じ。これ
 衣衣をとり。並り。さく族も。阿留倭使の族も。已非分の。是れ
 時。君を排大臣を嘲り。竟り。謀及と企む。の。臣とて。衣衣を
 へ道る。思慮を。妻子と。儻と。角。竹の。為。や。お。バ。大。勅。を。是
 さん。の。の。眞。加。と。さ。く。必。人。の。為。る。ん。恩。賞。を。さ。く。不。志。を。改。乃
 理。ゆ。や。美。盛。敵。死。の。恩。地。を。傾。し。法。士。別。當。を。管。る。を。前。功。め。れ。た
 之。彼。口。より。衣。衣。を。述。け。依。を。取。へ。さ。く。不。忠。の。賊。と。せ。し。今。の。騷。動。由。時。房
 系。上。の。美。盛。は。む。え。れ。か。後。本。の。禁。戒。美。盛。を。め。り。暗。の。車。を。急。交
 召。窮。め。ゆ。ん。ん。に。法。又。動。乱。を。企。む。と。尾。鱗。を。生。し。種。々。珍。言
 し。れ。ば。君。を。め。り。め。り。實。力。と。さ。り。名。り。る。や。北。条。へ。時。々。傳。使。を。り。け
 ら。れ。騷。動。を。靜。め。ん。公。業。朝。親。並。行。格。の。車。床。所。より。召。多。君。傳
 直。又。火。形。の。多。と。さ。く。仰。を。さ。く。時。又。小。宗。武。義。も。高。命。を。慕。り。公。業
 朝。親。宿。所。に。馳。走。る。小。鹿。嶋。方。の。美。盛。も。め。り。三。浦。の。一。黨。も
 勢。と。さ。く。和。め。ん。朝。親。方。の。甲。信。の。領。氏。亦。少。あり。い。ま。と。合。我

校合

高井蘭山



畫工

蹄齋北馬



備筆

鈴木武筍



彫刻

朝倉伊八

高井蘭山校合

星月夜顯晦錄三編

近刻

蹄齋北馬畫

全五冊

和漢
西洋
書籍
賣捌處

大阪心齋橋博勞町角

群玉堂河内屋
岡田茂兵衛

